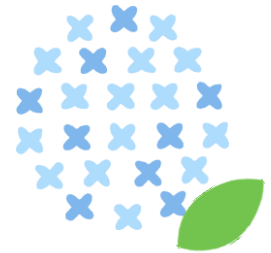


図書館サポーターズだより

明日に吹く風



GWも過ぎ、本格的に授業が始まって忙しくなる頃ですね。コロナ禍や梅雨のはしりも相まって、気分転換の遠出も少し難しいと思います。そんな時は、サポーターズおすすめの1冊から読書の旅はいかがですか？

～図書館サポーター推薦図書～

『海の島 ステフィとネッリの物語』

アニカ・トール 著 (949.83 || Th8 || 1)



時は第2次世界大戦初期、オーストリア。ユダヤ人への弾圧から逃れ、生きるために500人の子供がスウェーデンに渡りました。この物語は、スウェーデンに疎開した姉妹が過ごした1年が書かれています。2人は西海岸の漁師町にある別々の家族に引き取られ、故郷に残した両親を想いながら言語や文化、宗教も違う異国の地で生活します。様々な人と交流する中で孤独や寂しさと闘い、様々な困難に苦悩しながらも逞しく生きていく姿は感動的です。

作品は全4巻、姉妹の戦時中から戦後までの半生が綴られています。冒頭には、舞台となった島と当時のヨーロッパの戦況が地図で記されており、分かりやすくなっています。ぜひ、手に取っていただきたい1冊です。

(S. K)

『推し、燃ゆ』

宇佐見 りん 著 (913.6 || U92)



皆さんには、「推し」はありますか？その推しとは、いつ出会ってどんな印象がありますか？また、推しとはどのような存在でしょうか。芸能人からアイドル、その他キャラクターなど様々だと思います。では、その「推し」が炎上してしまったらどうしますか…。

主人公の山下あかりは、家庭にも学校にも馴染めず、生きづらさを感じながら日常生活を送っていました。ある日、唯一の救いの存在となっている、「推し」^{まさき}「上野真幸」がファンを殴って炎上…。彼のためならどんな辛いことも乗り越え、推し活が自分の生きる意味となっているあかりの話です。

現代社会にある推し活を明確に記している作品です。また、推し事をしていて人にとって、とても刺さる作品ですので、ぜひ読んでみてください。

(K. Y)

『「織細さん」の本』

武田 友紀 著 (141.94 || Ta59)



みなさんは、友人のちょっとした表情の変化や、空気の匂い、かすかな音など、些細なことに気づき、疲れてしまった経験はありますか？

この本では、「織細さん」の気持ちに寄り添い、具体的な予防方法や、回復を早めるケア方法を、丁寧にわかりやすく教えてくれます。「織細」と聞くと、「気にしすぎ」「真面目すぎる」などといった、マイナス・ネガティブなイメージを浮かべてしまいがちですが、この本を読むと、ちょっぴり前向きな気持ちになり、ちょっぴり楽になるかもしれません！「織細さん」ではない人も、身近にいる「織細さん」に気が付くきっかけにもなります。SNSが急速に発展して、他人の言動など、細かい変化に敏感になっている社会だからこそ、ぜひ、みなさんにこの本を読んでほしいです。

(A. T)

*図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。